

第2号議案—1

品質保証研究会 令和元年度活動計画

1. 活動基本方針

活動成果のなお一層の充実とその活用を図るため、以下の活動を実施する。

- ・ 全会員対象の講演会、見学会を計画し、会員相互の啓発を図る。
- ・ 定例研究会活動として、第1、第2の各グループのテーマに基づく、輪読、講義、購読、見学等の活動を推進すると共に、その活動成果を取り纏めて、会員の活用に供するように努める。
- ・ 会員間の情報交換、コミュニケーションの場の提供を図るため、QASG ニュースを発行すると共に、ホームページの有効活用を図る。

この方針に基づき、令和元年度の具体的な推進計画を以下に記載し、全体の活動計画(補足)を表1に示す。

2. 活動計画内容

2.1 総会

第29回通常総会を開催する。

2.2 講演会の開催

総会終了後、定例研究会活動報告(第1グループおよび第2グループ)、特別講演(井田喜明氏による『自然災害の予測と防災～現状と人工知能技術の活用』)および懇談会を行う。

下期(令和2年2月)に1回の講演会を予定する。

2.3 見学会の開催

下期(令和元年10月)に1回の見学会を予定する。

2.4 「QASG ニュース」の発行

年度内(令和元年9月、令和2年1月、5月)3回のQASG ニュース発行を予定する。

2.5 定例研究会活動

(1) 第1グループ(リーダー: 工藤竜太会員)

『研究テーマ: 品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 - 原子力セクタ規格の調査・検討」』

今年度までの活動により原子力QMSのあるべき姿が明確になってきたが、検討を始めたばかりの課題があり、また更なる課題も現れてきている。来年度は本研究のアウトプットを考慮し、検討を深化させ、また新たな課題へ取り組む。

1) 原子力セクタ規格の具体化

- ・ 原子力施設の事業者に対しては要求となりつつある、予防措置活動やリスク情報活用などの構内業者・供給者を含めた全体として、どのように取り組むか
- ・ 今後運用上問題となる可能性のある「一般産業向け工業品」の適用、今後サプライチェーンの変化により混入する可能性のある偽造品・不正品・疑惑品の排除

2) インセンティブに関する検討

高度な信頼性が求められる原子力の業界においては、各組織が積極的にQMSを自主改善する必要があるが、自発的改善を推進する仕掛けとしてのインセンティブに関する検討をさらに続ける。

(2) 第2グループ(リーダー: 氏田博士会員)

『研究テーマ: エラーマネジメントに関する調査研究』

令和元年度は、MTO 文献調査検討の継続およびプラントと自治体の対応における良好事例分析手法の確立とその適用に注力することとした。

1) MTO 文献調査と内容分析と国内適用の研究

福島事故の知見として、大規模複雑システムにおいては基本的想定が気づかれない可能性があるため、個々のシステムの脆弱性の特定は困難という理解がある。この解決のためには、Man, Technology, and Organization (MTO) という全体を考慮した取り組み (Systemic Approach) が必要であるという認識

が IAEA などを中心に西欧において共有されている。MTO 関連の文献を収集・調査を継続的に実施し、その内容を評価し日本における各組織の安全管理手法への適用性を継続して検討する。

2) 福島事故の 4 サイトプラントと自治体対応の比較分析

H30 年度は、福島第一と福島第二、東海第二と女川の 4 サイトの良好事例と失敗事例を総合的に比較分析し、リスク対策の在り方を検討した。また、国、福島県、宮城県および茨城県の災害と事故時の対応も比較分析した。令和元年度は、H30 年度に試みた「4 サイトプラントの良好事例・失敗事例の分析」と「国、福島県、宮城県および茨城県の災害・事故対応の比較分析」を統合した分析を継続して試みる。さらに対策としての Phased Approach の有効性を、各サイトと国や各自治体との関連性を考慮しつつ、評価する。

3) 良好事例分析手法の発展

H30 年度までに、良好事例(3 事例)また過去に分析した組織事故分析(9 事例)、さらに最近の事例を加えた 13 の改善事例を共通の分析シートに基づき統一的に分析し、横断的な比較考証から教訓を抽出した。令和元年度は、現場の問題向きの分析方法の検討と現場への適用を試みる。

以上

表1 品質保証研究会 令和元年度活動計画〔補足〕

項目	2019年(令和元年)						2020年(令和2年)						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
総会	第29回 6/4 ▽												第30回 ▽
	特別講演会 ▽ 6/4						○ (案内発送)	----- 第47回 ▽				○ (案内発送)	特別講演会 ----- ▽
全体活動	計画												
	実績												
見学会	計画												
	実績				第45回 ----- ▽ ○ (案内発送)								
QA SG ユニ ース	計画							98号 ----- ▽ ○ (発行)					
	実績									○ (依頼)	○ (締切)	99号 ----- ▽ (発行)	
第1グループ	計画												
	実績												
第2グループ	計画												
	実績												
幹事会	計画												
	実績												

○・▽：計画 ●・▼：実績

第2号議案-2

品質保証研究会・令和元年度収支予算案
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

単位:(円)

収入の部	金額		前年度予算額
会費収入	900,000		900,000
講演会参加費収入	20,000	1回分	20,000
見学会参加費収入	12,000	1回分	12,000
その他収入	200,000		200,000
収入計	1,132,000		1,132,000
前期繰越金	1,800,290		
合計	2,932,290		

支出の部	金額		前年度予算額
総会関係	700,000		700,000
定例研究会関係	150,000		150,000
講演会	150,000	1回分	150,000
見学会	20,000	1回分	20,000
ホームページ	270,000		140,000
30年史編纂	50,000		0
その他	0		0
支出計	1,340,000		1,160,000
予備費	1,592,290		
合計	2,932,290		